

こむぎ通信

令和7年1号

今年は3月10日頃まで小麦ほ場に雪が見られ、さらに、3月16日からの降雪により消雪が遅れ、越冬後の生育は遅れていると思われます。

滞水が見られる場合は、明きよの設置により小麦ほ場の排水に努め湿害を防止しましょう。

1 県生育観測ほにおける越冬前の生育状況（調査月日：令和6年11月20日）

は種は平年より7日遅い10月6日で、草丈、葉数は平年並で、茎数は平年よりやや少なく、病害虫の発生は見られなかった。

品種名	調査項目	本年	平年	前年	
ネバリゴシ 十和田市相坂	は種期（月日）	10/6	9/29	10/7	※平年（H23～R6） 〈耕種概要〉 ・基肥投入量 （kg/10a）N:5.6 P:5.6、K:5.6 ・条間 18.6cm ・小麦3年目ほ場
	は種量（kg/10a）	8.0	8.7	7.3	
	草丈（cm）	18.2	18.2	20.3	
	葉数（葉）	5.3	5.4	5.9	
	茎数（本/㎡）	1,005	1,047	1,022	

2 今後の作業

- （1）越冬後の生育を促進し茎数を確保するため、ほ場に入れる状態になったら幼穂形成期頃までに追肥を行う。
- （2）特に、は種が10月中旬以降になったほ場は、越冬後の草丈、葉数、㎡当たり茎数が少ないと思われるので、追肥により生育量を確保する。
- （3）追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況等を考慮して加減する。